

第2回 桐生市学校規模等適正化桜木中学校区検討委員会 議事録

○日 時 令和6年6月25日(火) 午後2時～午後3時30分

○場 所 桐生市立桜木公民館 2階 講堂

○出席者

【桐生市学校規模等適正化桜木中学校区検討委員会】11名

委員長	須永 伸一
副委員長	森田 曜市
委員	杉山 麻美子
委員	赤井 文美
委員	亀田 修
委員	亀井 輝子
委員	宮澤 美代子
委員	松島 宏明
委員	松崎 智幸
委員	村井 正典
委員	柴塚 雄太

【桐生市教育委員会】7名

《事務局》

教育部参事	渡邊 真宏
教育部総務課長	峯岸 孝徳
教育部学校教育課長	須藤 英隆
教育部教育環境課長	糸井 広江
教育部教育環境課教育未来係長	千葉 敦弘
教育部教育環境課教育未来係	新井 広明
教育部教育環境課教育未来係	小池 正文

【傍聴者】0名

【報道機関】1社

○議事の概要

1 開 会 [開始：午後 2 時 00 分]

- ・事務局自己紹介
- ・事務局から、過半数以上の委員の出席により、会議が成立することを報告。

2 委員長あいさつ

3 報告事項

- ・議事進行は、桐生市学校規模等適正化中学校区検討委員会及び地域協議会設置要綱第 8 条により、委員長が議長を務める。
- ・資料 7～資料 9 に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発 言 者	発 言 内 容
議長(委員長)	ただいま事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見などがございましたら、挙手をお願いいたします。事務局に確認ですが、この検討委員会は、最終的には、令和 7 年 3 月末までに会議の決定事項を教育委員会に報告するという予定でよろしいですか。
事務局 (教育環境課長)	目安として、令和 7 年 3 月 31 日に、桜木中学校区としての方向性を出していただくということをお願いをしております。
議長(委員長)	今回の会議以降、それまでに何回会議を開催する予定ですか。
事務局 (教育環境課長)	今回を含めて、今年度中に 3 回を予定しております。次回は 9 月から 11 月を目処に、3 回目の会議については、1 月から 2 月を目処にそれぞれの地区で行っていただく予定です。
議長(委員長)	今回とは別に、あと 2 回会議があり、それまでに内容がまとまれば、その段階で報告するという考え方で会議を進めていけばよろしいですか。
事務局 (教育環境課長)	そのとおりです。
議長(委員長)	それでは、ざっくばらんなご意見をたくさん出していただきたいと思います。なお、この会議の議事録が、市役所のホームページに載る際は、発言や質問は、個人名ではなく、「委員」として載りますので、安心して発言してください。初めに中学校の校長先生、ご意見がありましたらお願いします。
委員	桜木中学校の現状をお話すると、生徒数が減少しており、本校は 2 年生が 2 クラスしかありません。1 年生と 3 年生は 3 クラスあります。普段の授業については、特段問題はありますが、学校行事などは、多くの学級で競わせて、達成感を味わわせたいという思いはあります。部活動の現状としては、生徒数が減ってきた影響で、本校のサッカー部は、単独でチームが組めずに、他の中学校と合同チームを組んでいます。野球部も 1 年生が入部したので、今は単独でチームが組めますが、3 月までは合同チームでやっていたので、かつて人気があった野球やサッカーが、単独でチームが組めないくらい、部活動については生徒数減少の影響が出ていると感じています。そのた

発 言 者	発 言 内 容
	め、もう少し人数が増えた方が、教育活動全体としては、活性化すると考えています。また、生徒数の減少は、職員数の減少にもつながりますので、各教科の専門的な知識を持った教員や、部活動の経験者など、専門的な知識を持った教員を配置するには、一定の生徒数がないと、十分な教職員の数を確保できないと感じています。

4 議 題

(1) 桜木中学校区における学校規模等適正化の手法について

- ・資料3～資料6に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発 言 者	発 言 内 容
議長(委員長)	事務局の説明のとおり、本日は、桜木中学校区における小学校や中学校の学校規模の適正化の手法について、委員の皆様方にご協議いただきたいと思ひます。現在、桜木中学校区の桜木小学校は全学年が2学級、神明小学校は第5学年が1学級、それ以外の全学年が2学級、桜木中学校は第2学年が2学級、それ以外の全ての学年が3学級の状況であり、小学校1校と中学校が基本方針の望ましい学校規模よりも小規模な学校になっています。 前回の第1回会議に引き続き、児童生徒数の見込みや小規模校化の影響を考えながら、児童生徒にとって、より良い教育環境を実現するため、例えば、学校を統合して望ましい学校・学級規模を確保していくなど、色々と手法は考えられると思いますが、「どのようにして学校規模の適正化を進めていくのが良いか」について、委員の皆様のご意見をお聞きしたいと思ひます。ご意見がございましたら、挙手をお願いします
委員	先週、議長と副議長と事務局で、事前の打合せをしました。その中で、先ほど事務局の説明にあったように、前回の適正配置の時は、市役所主導で決めたことで、地域からの反発があったそうです。そこで、今回は地域の皆さんからの意見を吸い上げるため、検討委員会が作られました。しかし、我々委員は、何から話し合うのか分からない状態であると思ひますが、まずはこの検討委員会で、本当にざっくばらんな意見を出し、協議した結果をまとめ、令和7年3月末までに方向性を出していくということです。校長先生3名は、統廃合について、具体的な意見はあまり言えないと思ひます。ですから、地域や保護者の代表の9名を中心として、令和7年3月末までに方向性を決めていきたいと思ひますので、よろしくお願いします。
議長(委員長)	委員、お願いします。
委員	先ほど事務局と委員からお話がありましたが、平成の時の統廃合とは、清流中や中央中のことでしょうか。その時に、私は他県にいまして、こちらに戻ってきた時は、既に統合が行われていて、ただそれを受け入れるだけでした。その時に、市が主導で決めてしまったという批判があったという話ですが、他にはどのような意見があったのか、お聞きしたいと思ひました。全員

発 言 者	発 言 内 容
	が全員、100%賛成ということは絶対にはないとは思いますが、地域の皆さんや保護者のどのような意見があったのかを教えてくださいたいです。
議長(委員長)	私が市の職員だった頃の話ですが、前回の統廃合の時は、これほど皆さんが関心を持っていた時代ではなかったように思います。そこで、担当課が、各地域に説明に回っている中で、「それはとんでもない話だ」ということになりました。その時と今が違うのは、今は SNS など、安芸高田市の石丸前市長のように、「もう子供が少ない」、「もうどんどん人口が減っていく」など、それを踏まえて議会答弁などを行っているのを見てきましたが、もう子供が減り、人口が少なくなってきたことを、今は皆が承知しているのだと思います。統廃合となれば、誰も統廃合はしたくないと考える人が多いと思いますが、仕方がない、時代の流れと考えているように思います。前回の統廃合の時はどうだったかという、学校がなくなってしまうけれど、どうするんだ、通学についても、今度は遠くまで通わなければならない、町がさびれていってしまうだろう、という意見が多く出ていたように記憶しています。 また、私の記憶では、学校側の説明の中で、野球部やサッカー部など、その部活ができなくなってしまう、1 校だけではチームが組めず、他の学校と組んで部活をしなければならないという話が出ていました。市役所の担当者を応援するわけではありませんが、担当者も意見を吸い上げて、皆さんにご協力を願うのに一生懸命頑張っていたという感じでした。他にご意見がありましたら、よろしくお願いします。
委員	委員は、統廃合の時の担当でしたか。
議長(委員長)	委員、お願いします。
委員	当時は、選ばれた委員さん方が、適正配置の委員会を組んで、1つの方向性を作り上げて、それを各地域に説明をしてまわり、形を示していったと記憶をしています。当時の議論というのは、中学校区が喫緊の課題でしたから、中学校区を何とかしようという動きが第1にあったと記憶をしています。さらにそれが実行されるまでに、先ほどの説明もあったように5年ぐらいかかったように思います。私自身が、その委員会の中にいたわけではなく、当時の実行委員長が私の知り合いで、大分ご苦労されたのは記憶にあります。当時は、教育委員会に、指導部長、管理部長のお二人がいらっしゃいましたが、その方を中心に、各中学校区を回っていたように思います。ですから、このような会議をするのではなく、地域の説明会のような感じであったような気がします。
議長(委員長)	私も、職員が地域の会議に説明に回っていたという記憶があります。
委員	自分の母校がなくなってしまうという感情は、理解できますが、私が気にしているのは、子供の通いやすさや、子供の勉強や部活動のことです。それらに関しては、既に一度統廃合を経験しているので、前回のことを踏まえて、批判ではなく、意見を出し合って、今回の統廃合を検討するにあたっては、同じ批判を受けないように考えていくべきだと思い、聞いてみました。

発 言 者	発 言 内 容
議長(委員長)	委員、お願いします。
委員	資料 6 に、「全ての検討委員会は、当該中学校区における将来を見据えた学校規模及び学校配置の適正化について、令和 7 年 3 月 31 日を目安として、一定の方向性を決定してください」とありますが、桜木中学校区としては、こういう方向で行った方が良いのではないかという 1 つの方向性、ベクトルができれば良いという理解でよろしいでしょうか。
議長(委員長)	事務局、お願いします。
事務局 (教育環境課長)	桜木中学校区として、どのような手法を取っていくかということになりますので、例えば、考えられるケースとしましては、学校統合をするかしないか、学校統合をするとしたら、この中学校区内の小学校を統合するのか、または、隣接する中学校区との統合を考えていくのかの 2 つになるかと思います。もう 1 つのケースとしては、現状維持でいくということも考えられると思います。また、小中一貫校を作るというようなご意見も、他の地域では出てきたことがありますので、小中一貫校を作るとしたら、この中学校区内の小学校、中学校で 1 つの学校を作る方法も考えられますし、または隣接する中学校区の学校と統合をし、1 つの小中一貫校を作るというような形も考えられます。このようなケースが考えられるので、まずは、この中学校区として、どのような方向で学校の適正化を図っていくのか、手法について考えていただければと思います。
議長(委員長)	広沢町 3 丁目の一部の、通称、坂下地区は、広沢の小中学校に行っています。先日の事務局との事前打合せの時に確認しましたが、12 区 13 区という考えではなく、今の学校区で話を進めてもらいたいということです。広沢町 3 丁目の一部は、神明小ではなく、広沢小学校区になりますので、そちらは広沢中学校区の検討委員会で協議をするということになります。ただ、私が心配しているのは、仮に神明小が桜木小と統合になった場合、地域によっては、広沢小の方が近いという意見が出てくる可能性もあると思います。もう 1 つ気になったのが、市のホームページの広沢中学校区第 1 回検討委員会の議事録には、境野地区と統合した場合、子供が昭和橋を渡って通学するのは心配だという意見が載っていて、そのように他の地区との話も出ていることを知りました。しかし、今回のこの検討委員会では、桜木中学校区を中心に協議するということですので、それに沿ってご質問やご意見をよろしくお願いします。
委員	運動会などを見ると、人数が少なくて、少し寂しく感じます。また、保護者からの話として、小学校 1 年生から 6 年間変わらず一緒に嫌だなという意見も聞いているので、統廃合については、良いのかなと思いますが、現状だと桜木小と神明小が一緒になっても、中学校が、現在 2 年生が 2 クラスということは、小学校だけの統廃合では、中学校の生徒数は変わらないので、広沢地区や相生地区など、少し地区を広げて考える必要があると思います。 しかし、望ましい通学時間が 30 分以内となると、小学校 1 年生の 30 分以

発 言 者	発 言 内 容
	内というのは、凄く大変だと思います。そのように、通学路のことも考えていかななくてはならないと思うので、統廃合は良いと思いますが、通学路の見直しや学校の組合せの見直しなど、この地区の神明小と桜木小だけの問題ではないように思います。
議長(委員長)	他にご意見をいただきたいと思いますが、お願いします。
委員	かつて幼稚園の統廃合があったのが、今から 16 年から 20 年弱前だったと思います。その頃に公立幼稚園の PTA 会長をしており、統廃合についての相談に、保護者や教育委員会の方が集まったという経緯がありました。その時は、幼稚園だったので、規模が小さく、幼稚園の子供たちの人数も凄く少なかった時代です。その時に、13 園あった幼稚園を、だいぶ少なくした記憶があります。昔は、小学校区に 1 つずつ附属幼稚園のように幼稚園があった時代で、本当に良い時代でしたが、それがまかり通らない時代が来たということで、統廃合は、個人的には致し方ないことだと考えていましたが、保護者の方の中には、地域に 1 つ欲しいという意見が多く出ました。しかし、そういう人たちに対して、「こんなに子供が少ないのだから仕方がない」と言ったような記憶があります。 その時と比べると、数字的には比べ物になりませんが、統廃合は致し方ないという時代が来ていると、この資料のグラフや数字を見ると、そう思いますし、先ほど委員がおっしゃったように、桜木小学校と神明小学校の桜木地区だけで考える尺度ではないという感じがします。今から 10 年弱で両方の学校が単学級になってしまいます。神明小学校ができた経緯を考えると、当時はベビーブームで、団地が全盛の時代で、桜木小は 1000 人以上の大規模校だった時代です。1 学年に 6 クラス、7 クラスが当たり前の時代だったので、それを考えると、神明小ができて良かったという経緯もありますが、その頃とは、もう時代が変わっていますし、いずれは、どちらがなくなるとか、名前をどうするとかそういうことではなくて、桜木小と神明小は一緒になるのが良いのだと思います。私の考えが皆さんの考えと全く同じかどうか、保護者の方もどう思っているのか分かりませんが、この 2 校は、一緒になるのではないかと感じています。そして、地区的に隣接しているのが、広沢中地区、相生中地区、中央中地区ということをや考えると、桜木中地区がそれらの地区のちょうど中心のところなので、どちらに行くにしても、凄く遠くなってしまう、自分が子供だったら、または、自分の子供が在学していたら、どちらに登校させるのも嫌だという感じがします。しかし、長いスパンで、もう少し先の 20 年後を踏まえて考えたら、大きな規模での統合を考えていかななくてはならないと思うのですが、10 年後だとすれば桜木地区で小学校を統合し、そのまま中学校に上がるのが良いと思います。単学級には、善し悪しがあり、私の子供の時に、単学級になった時がありましたが、それはそれで凄くクラスがまとまって、凄く良いクラスだったという経験も思い出されますが、単学級の善し悪しだと、クラス替えがなく、切磋琢磨する経験が少ないことで、単学級は、良くないというイメージが強いので、単学級になる

発 言 者	発 言 内 容
	時を目安に、桜木小と神明小は統合するのが良いと思います。
議長(委員長)	私が中学生の頃に、桜木中学校が出来ました。私は広沢 4 丁目でしたので、広沢中学校に登校していましたが、この地区に住んでいて、桜木中に通ったとすれば、第 2 期生になったと思います。親として考えると、子供の通学路が変わって、通学路が長くなると心配です。雨が降ったら心配、風が吹いたら心配、色々な心配がもっと増えると思います。人口が少なくなってしまう中で、統廃合は致し方ないとも思いますが、最も良い方向性を、皆さんのお知恵を拝借しながら、この検討委員会で方向性を出せればと思っております。ご意見をよろしくお願いします。
委員	基本的には、小学校と中学校はだいぶ環境が違うように思います。小学校は、地域に根ざしており、通学路も近場にあり、コミュニティがある、という構造の中にあると思います。例えば、移住してくる人に対しては、近くに小学校あるということを、結構なセールスポイントとしています。そのようなエリアのコミュニティとしての役割にも、小学校は担っています。 しかし、中学校は少し違う次元にあるので、かつて中学校の適正配置が先行したのだと考えています。そもそも中学校を地域の中に根ざして考えることは、そろそろ無理があるように思います。桐生市全体の中で、中学校はいくつ必要なのかという観点から考えないと、部活のことも、先生のことも、結論は出ないように思います。例えば、4 校で良いのであれば、環境の良いところに統合し、4 校にするのが良いのではないかと私は思います。小学校は、もっと地域に根ざしたもので良いのだらうと思うので、単学級であっても、やりようはあるかもしれないですし、あるいはどこかと統合するにしても、通学校区を緩やかにして、行きたいところに行けるようにすれば良いのかもしれません。それによって、より魅力のある小学校が、もっとできるかもしれません。市内の小学校から伊勢崎の方へ行ってしまう子もいます。それを考えた時に、もっと公立の小学校が輝いていないといけないのではないかと思います。
議長(委員長)	今の話について、私は 12 区長として、区の中からそういう意見を聞いています。多い意見の中で、12 区から小学校がなくなってしまうのは大変だ、という話を聞いて、確かにそう思います。小さな子供が、大きなランドセルを背負って、歩いて学校まで通う時に、交通事情を考えながら通うのは、可哀想だと思います。他にご意見のある方、よろしくお願いします。
委員	私は、先ほどの委員の意見に同調します。中学校は、単独では部活もできないということなので、桐生市にいくつかの中学校というのは、凄く良いと思います。小学校は、通学時間のこともあるので、桜木小と神明小が統合しても構わないので、地域に残してほしいと思います。しかし、中学校は、先程委員がおっしゃったように、桐生市内で統合し、必要数だけにするというのは、納得できました。
議長(委員長)	他にございますか。

発 言 者	発 言 内 容
委員	統廃合については、資料 5 の人数を見ると、小学校と中学校は、別に考えなければならないと思います。小学校の望ましい人数が 400 人から 600 人となると、桜木小と神明小の統合だけでは、令和 30（2048）年には、望ましい人数以下となります。桜木小、神明小、広沢小の統合では、令和 30 年までは、400 人台を保ち、桜木小、相生小、神明小、天沼小の統合でも 500 人台を保ちます。しかし、広沢小を除く、桜木小、神明小、西小、南小の統合では、300 人台になり、望ましい人数以下になってしまいます。資料から考えると、望ましい人数以上になるには、この 2 つの統合案しかないように思います。中学校では、望まし人数が 300 人から 600 人とあります。それに対して桜木中学校のみでは下回り、桜木中と広沢中の統合でも下回り、桜木中と相生中の統合であれば、どうにか 300 人以上になります。桜木中と中央中の統合でも下回り、この資料からは、桜木中と相生中の統合のみが望ましい人数を超えません。そこに広沢中も含める可能性もあるかもしれませんが、この資料から考えられる統廃合の手法は、このようになると思います。 これまでの各中学校区検討委員会の新聞記事によると、中央中学校区では、中学校区内だけでは考えずに、市全体で考えた方が良いのではないかありました。清流中学校区も、複数の中学校区で統合した方が良いという意見で、新里中学校区は、隣接する中学校区がないので、中学校区内で小学校を統合するという動き、梅田中学校区も、中学校区を超えた編成を望むと言っています。広沢中学校区も、市全体で見直した方が良いと言っています。境野中学校区も、市全体で見直した方の良いと言っています。資料のみでは、他の検討委員会の様子が見えないので、統廃合に関しては、発言しづらいところもあると思います。例えば、先ほど委員が言ったように、市内に中学校は 4 校という考え方もありますし、私の考えでは、渡良瀬川右岸に 1 校、左岸に 1 校、新里地区に 1 校の、3 校でも良いと思います。小学校も、何十年後を見据えたら、最低限の校数でも仕方ないと思います。通学 30 分以内とは、通学手段を問わずと書いてあるので、スクールバスについても、検討する必要があると思います。
議長（委員長）	そのような話なども含めながらではないと、方向性を決定できないと思います。また、小学校の中に、放課後児童クラブがありますが、統廃合した時に、それがどうなるのかが心配です。保護者がそこに迎えにくる 5 時から 5 時半は、今も神明小の周辺は、車が混むと思います。統廃合については、どのようなのか決まっていますが、統合し、小学校に 1 つとなると、児童数は倍になり、保護者の送迎の数も増えます。また、登校が遅れた児童は、保護者が学校まで送ることも考えられるので、学校周辺の道路事情等も含めながら、考えていく必要があると思います。小学校の校長先生から、ご意見や説明等していただけますか。
委員	今年度の神明小学校の 5 年生は、昨年度まで 2 クラスだったのが、単学級になり、今年度は通常学級が 11 学級です。その 5 年生は、現在 35 人で、学級人数の上限の人数です。今日も県教委の学校人事課や市教委が、少人数プ

発 言 者	発 言 内 容
	ロジェクトの良さなどについて、学校の様子を見にきました。現在のように、20 人前後の学級の中で、子供たちを見ることができる状態というのは、子供たちに対して、非常にきめ細かく、学習面でも生徒指導面でも良く見られる状況を作ることができて、良いと思う反面、少人数でできたことが、今年度から 5 年生が単学級になり、1 クラスの児童数が倍になった状況というのは、単純に我々が昔 35 人のクラスが当たり前だった時代とは、職員、教員の関わり方が、全く違うように感じています。来年度は、2 年生が 30 人以上で、2 学級になっていますが、3 年生になると 35 人以下であるため 1 クラスになります。本校は、2 つの学年が単学級になるという状況です。少人数を維持し、複数学級で行ってきたものが、単学級になり人数が増えた時は、単学級の難しさだけではない、以前とは違う難しさを感じています。これまで子供たちに少人数だからこそできたことが、単学級になった時に、同じことを教員がしようと思ったら、やはり負担が倍になっていくということを実感しています。学校の現状としては、今、単学級の難しさというのを感じております。
議長(委員長)	続きまして、お願いします。
委員	桜木小学校の現状は、各学年に 2 クラスを維持できています。基本的には、各学年 50 人ベースで児童が在籍しております、今年度の 1 年生から 50 人を大きく割り込み、34 人という体制になりました。ここまで 1 学年の人数が減ったのは、本校の長き歴史の中でも随分珍しいことです。この先もその減少傾向は継続がされていくところです。現状ですと 2 年後、今の 1 年生が 3 年生になった時に、34 人という人数は、1 クラス減ということ余儀なくされます。そうすると、この先は、毎年 1 クラスずつ減っていくということが、容易に想像がつくところです。最近、クラス編成の際に、両クラスに諸々の観点から、どちらのクラスも同じになるようにという視点で、クラス分けをしているところではありますが、時にその児童同士の人間関係の難しさから、どうしてもこの子とこの子是一緒のクラスにはできないという話もあるそうです。そのような面で、クラス替えができないというのは、その児童にとっても、学校側、職員側にとっても、リスクがあるという気がして致し方ありません。仮に桜木小と神明小で一緒になったとしても、その先の中学校は、従前と変わりはございませんので、中学校の人数及びクラス数を考えると、もう少し広い目での検討が必要になってくると感じております。 また、過去の話で恐縮ですが、私は以前に板倉町に勤務しておりました。板倉町では、人口減少が桐生市と同じように、あるいは桐生市以上に進んでいるところもございまして、4 つの小学校、1 つの中学校という学校体制でした。私が赴任した時には、4 つの小学校を 2 つに減らすという段階でした。それまでは、児童の通学時間が、1 番遠い子では徒歩で 50 分、それが再編により、徒歩で 1 時間半になりました。そこで、板倉町としては、館林市内の観光会社と契約を結び、毎日、登校時と下校時にスクールバスを運行させて、それぞれの校区を回って学校へ送り届けることになりました。また、1 回の回り方では間に合いませんので、1 便 2 便という形でバスを出していました。

発 言 者	発 言 内 容
	ある家庭では、1 便の場合は 7 時 10 分に集合場所に行かなくてはならないので、2 便であれば、7 時 50 分で間に合います。要するに、ある特定の地域が、常に朝早い時間帯を余儀なくされるというのは、公平性に欠けてしまうので、ある期間は 7 時 10 分、ある期間は 7 時 50 分と、期間により変えて、バス便を出すということで妥結をし、再編に至りました。先ほどお話のあった学童については、再編先の学校に学童を大規模化して設定しました。保護者は、そちらに当然行っていただく訳ですが、その送迎に耐えられるように、駐車場も拡張し、そこに至るまでの道も、町行政の方で対応していただいたことで、無事再編が叶いました。子供たちも、今までは単学級や、1 番少ないクラスだと 7 人という状況でしたが、再編成後は、各学年 3 学級以上の学年に組み込まれました。最初は、あまりの大人数で委縮したという話を伺いましたが、切磋琢磨したことで、少ない人数出身の学校の子だからということで、怯むことなく、今は元気にやっているという最近のエピソードも耳にすることができ、元関係者としては嬉しく思っているところです。 また、私は中央中が統合される直前まで旧昭和小に勤めておりました。当時の校長から、地域の会合に出席するようにと指示があり、参加させていただきました。私の会議印象は、生徒数が減っているので、学校の維持が非常に厳しい、だから統合することは、皆さん賛成でした。致し方ないのだと。しかし、自分の地域の学校がなくなるということになると、そこは理屈ではなくて、その地域に長く住んでいらっしゃるからこそ、その学校に対しての思いというのが、どうしても頭をもたげてしまい、ある地域では、「うちの小学校がなくなってしまう」、「私が卒業した中学校がなくなってしまう」というところで、ものすごく難しさが感じられました。私は、完全に学校側の関係者として出席しておりましたので、そこにいらした地域の方々からは、「先生はどう思っているのか」、「あなたの意聞を聞きたい」と言われて、「はい、すみません。私から何も申し上げることはできません」ということで許していただいた苦い思い出がございます。政治の場でもよく出てきますけれども、総論賛成、各論反対というのを、身をもって体験した記憶が、今のお話を伺いながら頭の中に鮮明に蘇ってきたところです。難しさがあるのは分かりますが、先ほど事務局の方々からお話がありましたように、市全体を見渡して、なおかつ令和の 20 年頃までを見渡して、ということを考えますと、本当にその大局的な見方に立った検討というのが必要であり、それは、まだこの世に生を得ていない子供たちの未来まで含めての尊い検討であるということを改めて感じた次第です。まさか桐生に戻ってきて、また学校の統廃合の話が出てくることは、想像もしていなかったもので、これまで自分自身が経験させていただいてきたことと絡んでくることを考えますと、とてもその他人事に思えない思いで一杯です。
議長(委員長)	最後のご意見として、次の会議に結びつけていくという形でお願いします。
委員	全員の方の意見聞いて、なるほどと思います。やはり全部取り上げると、各論反対、総論賛成ということで、難しいからこういう会議を設けているの

発 言 者	発 言 内 容
	だと思ひます。まず、1 番手前の問題は、令和 20 年には、望ましい学校規模に持っていくということで、それから先は、今の 0 歳児もいるし、お腹の中の子供もいるし、桐生がどのように、少子化や高齢化、あるいはもう相対に人口減という厳しい中で、そういうことを含めて考えていかなければならない難しいところだと思ひます。清流中や中央中の統廃合の時に、色々な問題が出ていたことは、その頃に私は地域の役についていましたが、地域が違ふことから、そういう反対の意見を聞いたことがございませぬ。難しい問題です。事務局の方が、今日委員から出た意見を聞いて、それを組みとって、良い方向に持っていっていただければありがたいと思ひます。
議長(委員長)	ありがとうございます。本日は委員の皆様にご協議いただきましたが、本日のご意見等を整理し、次回の会議で改めて協議していただくということでよろしいでしょうか。それでは本日の議事は以上ですが、その他、委員の皆様から全体を通して何か意見等がございましたら挙手をお願いいたします。ないようですので、本日予定しておりました議事は以上になります。ここで議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

5 その他

6 閉 会 [終了：午後 3 時 30 分]